

【協働事業】平成29年度FD地域人材育成フェスタの実施報告

COC+事業の一環として、インターンシップなど、事業において進める連携団体との協働の課題とノウハウを共有するためのFD地域人材育成フェスタを、3月3日に徳島グランヴィリオホテルにて開催した。その詳細について報告する。

(1) 実施の目的

今年度のCOC+事業での取組を振り返り、そこにおける成果や課題を「とくしま元気印イノベーション人材育成協議会」に参加する高等教育機関、行政、民間企業、経済団体、NPO等、地域全体で確認・共有するとともに、今後の事業の進め方や県内就職率向上に向けた取組について協議する。また、インターンシップ事業の受入側におけるメリットを地域のより多くの企業等に伝え、インターンシップの受入団体や協議会への参加団体の増加につなげる。

(2) 参加人数

事業参加校教職員	: 68名
県内企業、団体等	: 13名
徳島県関係者	: 16名
行政機関職員	: 1名
学生	: 10名
計	: 108名

(3) プログラム概要

【第一部】記念講演

株式会社電脳交通の近藤洋祐社長より、「創業期を支えた学生とそこに求めた人物像・もたらした効果等について」というテーマで、ご講演頂いた。

【第二部】平成29年度のCOC+事業成果報告

今年度のCOC+事業での成果報告として、四国大学が実施している「創業支援事業」、徳島大学が実施している「実践力養成型（寺子屋式）インターンシップ」について、取り組みや課題について報告した。

- ① 報告①：創業支援事業の取り組み（四国大学）
- ② 報告②：実践力養成型（寺子屋式）インターンシップの取り組み（徳島大学）
- ③ 報告③：参加校協働事業の取り組み（割愛）

【第三部】ワークショップ

地域人材の育成及び確保をはかるために、産官学での連携を強化にむけて話し合うワークショップを行った。なお、導入部分では玉推進監により、「地方創生産学官コンソーシアムとくしま（仮称）構想」についてお話を頂いた。

- ① 導入 : 「地方創生産学官コンソーシアムとくしま（仮称）構想」について（玉推進監）
- ② ワークショップ : 産官学がステイクホルダーとして参画するのに、何の障害・問題が起こっているのか

【第四部】情報交換会

参加教員、行政機関の職員、参加企業・団体の間で情報交換を行った。

(4) 事例報告の概要

【第一部】記念講演

講演者：近藤洋祐（株式会社電脳交通）

- ・ 株式会社電脳交通の事業概要や内容、事業の将来展望をお話し頂いた。
- ・ 電脳交通の創業期に、インターンシップ生として受入れて頂いた徳島大学の学生が、会社に与えた影響や効果等について、当時の写真を交えてお話し頂いた。

【第二部】平成29年度のCOC+事業成果報告

報告①「創業支援事業の取り組み」（四国大学）

報告者：（代理登壇）岩野瑞紀（里見和彦（四国大学創業支援クリエイター））

- ・ 四国大学がCOC+事業で実施している創業支援事業「社長のかばんもち」「とくしまサイコー塾」「チャレンジショップ」「ビジネスプラン道場」について、事業内容及び成果の報告を行った。
- ・ 「ビジネスプラン道場」については、グランプリ&オーディエンス賞を受賞した徳島文理大学の1年生グループから、受賞案について成果発表を行った。
- ・ 「社長のかばんもち」についても、修了学生が体験内容や、新しい事業案の提案を行った。

報告②「実践力養成型（寺子屋式）インターンシップ」（徳島大学）

報告者：宮本紀子（徳島大学COC+推進コーディネーター）

- ・ 徳島大学が導入を進めているプロジェクト型のインターンシップ（寺子屋式インターンシップ）について、趣旨及び平成28年度からの変更点、平成29年度の取り組み内容について報告を行った。
- ・ インターンシップに取り組んだ受入れ企業様から2名、学生のから3名、学内メンター（ドン）の1名から、パネルディスカッション形式で、インターンシップの成果及び、取り組みを終えての想いについて発表を行った。

報告③「参加校協働事業の取り組み」について

報告者：川崎克寛（徳島大学COC+推進コーディネーター）

- ・ 本フェスタでの報告は割愛した

【第三部】ワークショップ

導入：「地方創生産学官コンソーシアムとくしま（仮称）構想」について

報告者：玉 真之介（徳島大学COC+推進監）

- ・ 地域と大学が果たすべき、新しい連携や協力について発表を行った。
- ・ 平成30年度を目標に、「とくしま元気印イノベーション人材育成協議会」を母体とした、コンソーシアム設立の意義と今後の展望について、発表を行った。
- ・ 直後に行われるワークショップのテーマ発表を、最後に行った。

ワークショップ：産・官・学が地域人材の育成及び確保をするための連携について

- ・ はじめに自己紹介と、徳島の好きなところ（よいところ）を1つ紹介して頂いた
- ・ 次に、下記3点について意見交換を行った。
 - ①大学生の元気を地域の力にする方法
 - ②地域人材の育成と確保に向けた地域・企業の参画の方法
 - ③地方創生に向けた産官学の組織連携（コンソーシアム）を作るのに、何が重要か

ワークショップで出た意見について、抜粋したものを下記に記載する

①大学生の元気を地域の力にする方法

- ・実践力養成型（寺子屋式）インターンシップのモデルがこの答えではないか。
- ・就職先はあるが学生とのマッチングの機会がないため活かすことができない。ここに重きを置くべきである。
- ・インターンシップを受入れる企業の意識が低いことが問題。
- ・大学院生を一度外に出すことが重要。
- ・指導教員に関係する企業に、全員必修のインターンシップとして行かせる。
- ・チャレンジをさせてあげる。機会創出する。
- ・学生が言いたいことを、言える場所づくりが重要。
- ・産官学の連携を、学生から経験するべき。
- ・世の中で起こっている問題を見せてあげる。
- ・サテライトオフィスの活用

②地域人材の育成と確保に向けた地域・企業の参画の方法

- ・6次化だけでなく、食物を育てる力を育むべき。
- ・インターンをもっと長い期間にして、推薦のような形にする。
- ・インターネットの情報だけではなく、実際に社員が出向いて人と関わることが重要。
- ・徳島（地方）での暮らしの魅力を伝える。
- ・学生の視点とのマッチングの場が必要である。
- ・マッチングの調整を誰がするのかを明確にする必要がある。
- ・インターンシップをもう少し長期化し、推薦のような制度は取れないか。
- ・零細企業は人手不足に陥っている。そこに働きかけるのはどうか。

③地方創生に向けた産官学の組織連携（コンソーシアム）を作るのに、何が重要か

- ・現行の大学カリキュラムでは難しい。学部が複雑になるとさらに難しくなる。
- ・県庁でも教育の余裕がなく、研修はOJTとなってしまう。
- ・小・中・高校を巻き込むことが必要。
- ・全国的に連携が上手くいっているところは、お互いが本音をぶつけている。
- ・連携には目的意識をはっきりと持ち、機関を決めてやるべき。コンソーシアムは鮮度が重要。
- ・世の中に必要なものを連携して、世に出す必要がある。

(5) アンケート回答の取りまとめ

【第一部：記念講演の感想】

- ・ベンチャービジネスの進展と学生の参入、習熟が並走型で進展したことが面白かった。（徳島県職員）
- ・ブレイクスルーには学生の力は大きな推進力になる可能性を秘めているのではないか。（徳島県職員）
- ・若い人材が実際にどのように活かされているか、現場の話が聴けて大変興味深く思いました。（徳島大学教員）
- ・大学は学生に平等な教育をしなければならない。「君は向いていない」と切り捨てることもできず、過保護すぎる教育をしている。それが学生の甘えに繋がっているのではないかと思った。（徳島大学教員）
- ・学生が発揮する能力は予想以上に大きいと感じた。そのような能力を発揮させるべく、いかに仕向けるべきか考えさせられた。（徳島大学教員）
- ・業界を越えた地方が抱える課題に対して、近藤社長ご自身が個人的にできる事もお聞きしたかった

です。(参加企業)

【第二部：COC+事業成果報告についての感想】

報告① 「創業支援事業の取り組み」について

- ・発想的には良いと思ったが、短い事業実施期間で成果は難しいのでは無いかと思った。(徳島県職員)
- ・学生自身がビジネスプランを考えることが重要。社長のかばんもちが貴重な体験になるのでは。(徳島県職員)
- ・学生らしさ、学生のフレッシュさがよく出ていた。(四国大学教員)
- ・1年生からこのような体験をすることは学びが大きいと思います。学生自身がビフォーアフターをどう捉えているのかを、おききしたいと思いました。(行政機関職員)
- ・学生がかなり真剣に取り組んでいることが分かった。このように仕向ける方法は、どのようにすれば良いかと想像をめぐらせた。(徳島大学教員)

報告②「実践力養成型(寺子屋式)インターンシップ」について

- ・インターンシップとイノベーション人材育成の目的で、整合性が自分の中で最後までつかなかった。(徳島県職員)
- ・私の時代であれば・・・。(徳島県職員)
- ・企業・教員が大変大勢苦勞しているが、学生にはよい学びになっている。(四国大学職員)
- ・学生と社会人の意識のギャップを埋める作業(指導)はインターンに限った話ではなく、普段から普通に必要です。これが「普通」のこととなるにはどうしたら良いのかと思った。(徳島大学職員)
- ・学生がパネラーとして参加されても、十分に情報が引き出されていて、とても新鮮なイベントでした。学生に効果が出ている現れですね。(行政機関職員)
- ・大学メンター(ドン)と企業側担当者によって、一方向のみではない相互の意見を踏まえたインターンシップができることを実感した。(徳島大学教員)

【第三部：ワークショップについての感想】

- ・少し時間が短かったです。もう少し議論したかったと考えます。(参加企業)
- ・有意義な時間であった。参加した感を味わえました。(徳島大学職員)
- ・県庁の方や、農家の方と話す事ができ、良い経験となった。いろんな立場の人の意見をもっと交換できる機会を増やした方が良いのではないかと思います。(徳島大学教員)
- ・他分野の方がいかに苦勞しているのか分かった。他分野の現状が分かった。(四国大学教員)
- ・徳島から学生が出ていくのを避ける。そのために地方をアピールしなければならない。(徳島大学教員)



開会挨拶をする野地学長



【第一部】記念講演を行う近藤社長



【第二部】ビジネスプラン道場の取組報告の様子



【第二部】パネルディスカッションの様子



【第三部】ワークショップの様子



閉会挨拶をする吉田理事